公開用

平成２９年度蕨市保健センター運営委員会　議事録

日　時　平成３０年２月１日
午後１時３０分～午後３時
場　所　保健センター（健康教育室）

＜出席者＞

委員：飯野朗子委員長　羽根田高洋委員長代理　小泉紀子委員　鈴木芳美委員　小島淳子委員　梶原英明委員　古川歩委員　佐藤則夫委員　田中義枝委員

事務局：石丸岳広所長　朝倉久美子保健指導係長　小川有紀子庶務係長　鹿嶋恵美子保健師　細野亜紀子保健師

＜欠席者＞

委員：柳原登子委員　金子健二委員

配布資料：①「資料　平成２９年度蕨市保健センター運営委員会」②「平成２８年度蕨市保健事業統計」、③「わらび健康アップ計画情報紙　健康密度も日本一のまちへ」

議事

＜（１）平成２８年度・平成２９年度事業実施状況について＞

◆事務局説明：平成 28 年度・平成 29 年度の主な事業を中心に説明

〇**委員長**：資料 10 ページの乳児家庭全戸訪問事業は、全戸訪問が原則となっているが、訪問拒否や訪問しても会えない率はどれくらいなのか。

事務局：率は出していないが、年間 10 件くらいある。何回電話をしても連絡がつかず、手紙を出しても反応がなく、訪問をしても不在の家庭がある。子どもが４人目５人目で、出産後母親がすぐに働きに出てしまい時間が取れないため、訪問を拒否される場合がある。

委員長：訪問ができなかった家庭で、乳幼児健診も未受診だった場合、虐待などにつながってしまうケースがあるのか。

事務局：未受診の日本人家庭の中には、虐待の疑いありとして、要保護児童対策地域協議会の検討案件でとりあげ、見守りを続けているケースが数件ある。訪問ができない家庭でいちばん多いのは、中国などの外国籍家庭で、国に帰ってしまい日本に滞在していないケースで、新生児訪問ができず、４か月児健診も未受診

だった場合、リスク判定会議にとりあげて出入国調査をしてみると、出国してしまっている場合が多い。

委員長：新生児訪問ができなかった家庭については、虐待に結びつかないか見守っていかないといけないケースもある。

○委員：民生委員として活動しているが、65 歳未満の精神障害のある方のケースにあたった場合は、どこに相談をつなげていっていいのか分からない。保健センターにも、訪問していただくこともあるが、なかなか短期的に解決することが難しい。保健センターで月１回行っている心の健康相談は、具体的にどのような内容なのか、また、市で提携している精神科のクリニックがあれば教えてほしい。うつ病などの精神障害を持ち、問題を抱え悩んでいても、家族が相談できず隠してしまい表面に見えてこないことも多い。提携している医療機関があれば、周知していただきたい。

事務局：保健センターで行っている心の健康相談では、市民や民生委員の方からも相談の希望があった場合、まず担当の保健師が話を聞き、その後、相談内容に応じて対応方法を検討し、精神科の医師につなげている。来所できない方には、保健師の訪問も行っている。家族が隠している場合、困っている状況を外に出していけるよう民生委員の方にもご協力をいただきながら、はたらきかけていきたいと考えている。困難ケースの場合は、埼玉県川口保健所にも相談しながらいっしょに対応しているので、何かお困りのことがあったら、相談していただきたい。市で提携している精神科の病院は、特にない。蕨市内に精神科の医療機関が少ないため、戸田や川口など広く相談をかけている。ケースバイケースで柔軟に対応していきたい。

委員長：医療機関の提携となると、個人病院では土日や休診日の対応が難しい。24 時間医師が常駐している戸田病院に対応してもらったり、緊急の場合は警察通報になることもある。早いうちに、医療につなげていけるように相談をしてほしい。

委員：医療に結びつくまでが大変。周囲がおろおろして見ている。近隣で大声を上げている人や不衛生な人がいた場合、すぐに民生委員に相談がくるが、本人が治療に前向きにならないと難しい。

○委員長代理：12 ページの今年度新規事業の妊婦歯科健診は、まだ集計は終了していないが、受診者が少ないようだ。今後、受診率向上に向けて対策を練っていきたい。

＜（２）わらび健康アップ計画について＞

◆事務局説明：現在策定中のわらび健康アップ計画の概要について説明。

＜（３）健（検）診事業について＞

◆事務局説明：がん検診の受診率等について、埼玉県内の市町村や他県の平成 27 年度実績比較を踏まえて説明。

〇委員：近隣の他市、戸田・和光・朝霞などと比べて受診率が低い。県南地域独特の傾向とも違うとようだが、これについてどのように分析しているか。

事務局：理由について分析はできてないが、平成 27 年度より厚生労働省に提出する受診率の算出方法が変わり、受診率が下がった市町村が多い。算出方法について、まだ完全に統一が図られておらず、従来の算出方法で提出してしまった市町村も多いため、受診率に差ができてしまったようだ。確定値ではないが、平成 28 年度の肺がん検診の受診率は、近隣の戸田市も同程度の数値になる見込み。

委員：蕨市は、受診率が高いイメージがあった。

事務局：蕨市は 60 歳以上の受診者は多いので、受診者全体で見ると受診率は高いが、国がターゲットとする 40 歳から 69 歳までの年齢層となると受診率が低くなってしまう。

委員長：40 歳から 69 歳までの全人口の受診率となると、社会保険加入者が多い場合、受診率が低くなる。要精検になった人の受診率が低いようだが、受診した医療機関と精密検査医療機関の中で、受診結果のやりとりが行われ、受診者はこのラインにのってこないため、自覚がない。受診をしても結果を医療機関に確認しない人が多い。受診者が精密検査医療機関に行って、必ず最終検査の結果を聞き、その結果票を保健センターに自分で郵送するしくみにすると、本人に自覚をもってもらえると思うので、検討してみてほしい。

事務局：今年度より封筒に受診するときの注意事項や心構えを記載するようにした。

委員長：あまり読んでいないと思う。自覚を促すような手立てを考えてみてほしい。

＜（４）平成３０年度事業予定について＞

◆事務局説明：平成 30 年度に保健センターで予定している事業についての方針や新規事業について説明。

〇委員：人間ドックは、通常午前中で終了するが、胃内視鏡検査は、人間ドックと同じ時間内で、市立病院で受診することになるのか。

事務局：胃の検査をする場合、前日から食事ができないので、午後の検査は難しい。午前中の人間ドックの時間内に実施をする予定。

〇委員長：保健センターは、マンパワーが足りない。新しい事業が、どんどん入ってくるが、人員は変わらない。蕨市は、保健師が事務関係の仕事も行っている。も

う少しマンパワーがあると、業務がもっとスムーズになると思う。

委員：健康アップステーションの運営を手伝わせてもらっているが、参加している方たちが、ようやく慣れてきた。こういった健康づくりの取組は、続けていかないと意味がないと思う。息の長い事業として支えてほしい。

委員：がん検診の受診率の順位が低いということだが、数字だけで見ると、誤解を生む。数字の部分に補足を加えて正確性を表してほしい。健康長寿埼玉モデル事業は、３年だけではもったいない。国民健康保険の特別調整交付金がどうやって使われているのか気になっていた。形を変えながら次の事業にいかしてほしい。

＜（５）その他について＞

◆事務局：保健センター運営委員会については、毎年２月の第１木曜日とし、来年度は、平成３１年２月７日（木）の開催予定と案内。

午後３時５分　事務局より閉会を宣言。